

平成29年4月改訂 コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2017 改訂資料

1 コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2014

「コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2014」は、平成19年に制定された「コンクリート構造物ひび割れ抑制対策資料」における「ひび割れ制御」の趣旨を踏まえつつ、その目的をコンクリート構造物の品質確保に拡大し、さらに積極的な取組みを展開していくことを目的として、2014年5月に策定された。対策資料からガイド2014への移行のポイントは次のとおりである。

- 目的をひび割れ抑制から、品質確保を図ることにより耐久性向上に拡大
- 「施工の基本事項の遵守」を行ったうえで、「ひび割れ抑制対策」、「防水対策」、「鉄筋組立の精度確保」により品質を確保。
- これまでの運用実績の反映。
- データベース高度化への対応を含めた記入様式の改善。

2 コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2016 改訂内容

- ガイドに示されたPDCAサイクルに基づき、ガイド2014の改訂を行った。主な改訂は次のとおりである。
- 施工状況把握チェックシートの「締固め」のチェック項目に「バイブレータの振動時間は、5～15秒としているか。」を追加した。また「メモ欄」を追加した。
 - コンクリート施工記録シートへ記入する項目を追加した。
 - 「打継ぎ間隔の調整によるひび割れ抑制対策」を柱の一つとして位置付けた。
 - H27に提出された「コンクリート施工記録」を追加して、資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例の再検討を行った。
 - 施工時に発生する不具合の事例を、目視評価法の評価項目で再整理した。
 - 本文の内容が理解しやすいよう図表の表現を見直した。

3 コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2017 改訂内容

ガイドに示されたPDCAサイクルに基づき、ガイド2016の改訂を行った。改訂内容は次の2点である。

- (1) H28に提出された「コンクリート施工記録」を追加して、資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例を改訂した。

【内容】

材料等によるひび割れ抑制対策の検討は、コンクリート施工記録データベースに格納された最新の記録を用いて行われ、ガイドには、その検討手法として「資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例」を掲載している。

今回の改訂では、2016年に提出された最新の「コンクリート施工記録」を追加したうえで再検討を行い、「資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例」を改訂した。なお、検討のデータを追加したものの、抑制対策の結果は2016と変わっていない。

- (2) 資料3 コンクリート施工記録データベース（新システム）利用方法を新たに追加。

【内容】

官学共同研究において、新たなコンクリート施工記録データベース（新システム）を開発し、2016年8月から（一財）山口県建設技術センターのホームページで試行運用を開始している。

今回の改訂では、新システムの利用方法を「資料3」にまとめ、ガイドに追加した。